



Hurp

ハーブ通信

2010 年

8月号

(第 51 号)

<http://www.hurp.info>

記録的な猛暑が続いていますが、ご健康にはくれぐれもご注意ください。

さて、おかげさまで Hurp も今年で 5 周年を迎えることができました。今年、2010 年は 1960 年に発効した日米安保条約から 50 年、1910 年に大韓帝国（李氏朝鮮の国号）を日本が植民地化した「韓国併合」から 100 年の年にあたります。

改めて、日米安保条約による普天間基地を始めとした平和の問題、大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国に対する戦後補償と在日の方も含めた広い意味での人権問題などを未来志向で向き合う時期といえます。同時に日本社会の中で、未解決の様々な基本的人権が実現していない事実に対して今後取り組んでいきたいと考えております。

今後とも、多様な形で Hurp にご参加、ご協力をお願いいたします。

2010 年 8 月

Hurp 事務局一同

平和への思いを読み伝える

平和へのメッセージ 2010 年 8 月-8th-

2010 年 8 月 19 日 於 月島社会教育会館

私達にできること、それは語りつぐこと——。

青年劇場の俳優たちによる朗読「平和へのメッセージ」が、標記会場で催されました。10 の作品が青年劇場の有志によって朗読されました。

「母の遺言」(影山喜代子)

では、疎開先の子どもへたくさん送られる母の手紙が読み上げられました。つらい生活の中での喜び、望郷の詩、そして空襲、手紙はそのまま遺言になる……戦争で引き離された子どもの悲しみが語られました。

「走っている」(宗左近)

空襲に遭い母とはぐれ、それでも生きるために走り続ける男の子。「走っている」の一言でほとんど埋めつくされた詩を、鬼気迫る表情で話す様子は、死が目前に迫っている恐怖を現わしていました。

「沖縄は戦場だった」(抜粋)「B52 が落ちた」(『お話風土記』より)

沖縄で繰り広げられた地上戦の悲劇を、孤児になるということはどういう事が語られました。

「ヒロシ君という少年のこと」(真実井房子)

被爆の経験を語り、「でも私は誰も助けませんでした」と慟哭

する被爆者に、一番前で聞いていた障がい者のヒロシ君が激励の言葉をかける話です。

「戦争を知らない世代の方が多かった今、若者が戦争と平和について関心を持つきっかけとして、文学や演劇、映像など芸術作品の持つ意味は年々多くなっていると思

います。でも、戦争の体験に想像をめぐらし、それを表現することは本当に大変だと実感しています。過去の日本の戦争だけではなく、世界のあちこちで今も続く戦争、そこに生きる人々、殺された人々、一人ひとりの人生を表現すること。この重い課題に、全力をあげてぶつかり、学び相語り合い批判し合い、一歩でも“真実”に近づくこと——それが平和を求め戦争を拒否する芸術家の使命なのだと、先輩達の歩みに思いを馳せながら、改めて心に刻む夏となりました」というあいさつ文の通り、作品作品に込められた作者の思いを“真実”に近づいて表現できていたと思いました。(T 司)



「核兵器はいらない」を世界へ

核兵器を考える夏 ①

2010年8月7日～12日

原爆が投下されてから65年、今年の5月28日にNPT（核兵器の不拡散に関する条約）再検討会議では核廃絶への具体的措置を含む64項目の行動計画を盛り込んだ最終文書を全会一致で採択、閉幕しました。

この夏、長崎・広島を訪問し、「原水爆禁止2010年世界大会・長崎」に参加する機会に恵まれましたので、報告します。

8月7日 爆心地・原爆資料館



2日間にわたり開催される前日に長崎に入り、平和公園のほど近くの爆心地を見学しました。モニュメントの周囲にはたくさんの千羽鶴が供えられていました。その側には浦上天主堂の遺壁が移転されてたたずんでいました。

原爆資料館に行く途中でアイス屋さんのおばあちゃんがいたので一本買おうとしましたが、あいにく売り切れでした。「地元の方ですか？」とお話したところ、原爆が投下されたとき、五島列島で暮らしていたそうです。「ドーンという大きな音が（五島列島まで）聞こえた。被害には遭わなかったが、その後の敗戦の時にアメリカ兵がせめて来るという話があってそちらの方が恐ろしかった」と、戦争の恐ろしさを語ってくれました。原爆とは、戦争とは何かを考えさせられました。

原爆資料館では地元の被爆者の方がガイドをしてくださいました。気さくに話してくれるおじさんは、しかし原爆を体験したという重みと意思が言葉に込められていました。

8月8日 原水爆禁止2010年世界大会—長崎 国際交流フォーラム



長崎大学中部（なかべ）講堂で、標記フォーラムが催されました。

田上富久長崎市長は、「核のない世界をもう一度つくるべきであり、責任があります。自分が死んだ後も核兵器が使われてはなりません。わたしたちから核兵器は要らないのだと呼びかけることが必要です」と、核兵器のない世界へ向けて、ここから発信していこうという意気込みを話しました。

また、世界各国からの代表は、「NPT 再検討会議では、核廃絶の明確な期限名が決められなかったのは残念だが、核兵器禁止条約の交渉の検討を提案した潘基文（パンギムン）国連事務総長の提案などは評価したい」（キューバ臨時代理大使・アンドレス・バジェステルさん）「8月6日の広島平和式典にルース駐日アメリカ大使が参加したが、謝罪の言葉は一切なく、また、行動ありません。アメリカが積極的に動かない限り、この問題は解決しません」（国際原子力機関マレーシア代表理事・ムハンマド・シャルル・イクラム・ヤーコブさん）といった発言がなされました。また、会場からも多くの外国人の発言が翻訳機を通じて聞かれ、平和への思いは世界共通であることを会場全体で共有しました。

「ヒロシマ・ナガサキは世界の良心を集める場だと思います」（ノルウェー・ゴメスさん）世界の良心を受けて日本がすべきことは何かを考えさせられました。

（T本・続く）

戦前戦後、社会的弱者のためにたたかった弁護士

「弁護士 布施辰治」 紹介

◆『弁護士 布施辰治』

大石 進 著

西田書店 刊

<http://www.nishida-shoten.co.jp/>

2010年3月発行：四六版／316 ページ

ISBN:9784888665247

「私は、祖父を、愛をもって語ることが出来るようになった」

戦前戦後、常に社会的弱者とともに闘い、韓国・建国勲章を受章した唯一の日本人布施辰治、その圧倒的な人生を、孫にあたる著者が書き表した渾身の評伝です。

法律家とは、弁護士のあるべき姿とは何か。布施辰治の生涯が、それを鋭く問いかけます。HuRP では、この本の普及をしています。ぜひ、お読みください。

ご購入は、こちらにご連絡ください。

特定非営利活動法人 人権・平和国際情報センター

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-7-6 川合ビル 41 号室

TEL/FAX 03-3234-3231 E-Mail hurp@hurp.info

また、布施辰治の激動の生涯を綴ったドキュメンタリー映画「弁護士 布施辰治」の上映会が、東京で行われます。ぜひご覧ください。

東京上映会

日時：9月25日(土)13:30～

場所：曳舟文化センター 131-0046 東京都墨田区京島 1 丁目 38-11 03-3616-3951

問合せ：国民救援会 TEL 03-5842-5842 (吉田)



憲法の理念を社会に伝える

「法学館憲法研究所報 第3号」 紹介

◆『法学館憲法研究所報 第3号』

法学館憲法研究所 刊

<http://www.jicll.jp/jimukyoku/backnumber/20100719.html>

2010年7月発行：A5版：税込800円

2009年7月、憲法の理念を広げ、市民と憲法の専門家をつなぐ雑誌として出発した「法学館憲法研究所報」、2010年7月に第3号を刊行しました。いっそう多くの市民、学生、研究者の方々にご活用いただけるようご案内いたします。

巻頭言 浦部法穂

<第3回公開研究会「現代の諸問題と憲法」>現代の貧困—派遣村からみた日本社会 湯浅 誠

<第4回公開研究会「現代の諸問題と憲法」>地方自治の憲法保障戦略 白藤博行

[論文] 布施辰治と二人の朝鮮人青年—1932年陪審法廷での闘い 森 正

[論文] 日米関係及び国際関係のあり方を再考する 浅井基文

<講演>自分らしく生きるために—もっと知ろう日本国憲法 伊藤 真



ご購入は、法学館憲法研究所 HP より申し込みフォーム <https://www.jicll.jp/form/order.php>

または 150-0031 東京都渋谷区桜丘町 17-5 法学館憲法研究所

Tel 03-5489-2153 までお問い合わせください。

平和な休日～のほほんのほ子のカフェ散歩～

第5回：鎌倉「ベルグフェルド長谷店」

<http://homepage2.nifty.com/bergfeld/>

住所：鎌倉市長谷 2-13-47

電話：0467-24-9843

今回ご紹介するのは、「ベルグフェルド長谷店」です。白い洒落た外観に、西洋風の看板が目印。中は広く、アンティークの家具で統一されており、落ち着いた感じです。白とこげ茶の木材で統一、と言ったら雰囲気は伝わるでしょうか。のほ子が訪れたときは、わりと込み合っていました。でも、席はゆったりしているし、広く使わせてくださったので、気持ちよく居られました。のほ子は、シュワルツワルダーキルシュトルテとアイスミルクティーのケーキセット（892円）を注文。この長い名前のケーキ、「サワーチェリーとキルシュのきいたドイツの黒い森のケーキ」、と説明がありました。スポンジとクリームのみつつくはない甘さと、チェリーの酸っぱさが絶妙でした。テイクアウトもできます。のほ子は、季節商品のルバーブのパイを購入、こちらも酸っぱ甘くて、おいしかったですよ。（10:30～18:30、無休。本店は、営業日・時間が違うので注意）



～ちょっと寄り道～

鎌倉文学館

<http://www.kamakurabungaku.com/index.html>

住所：鎌倉市長谷 1-5-3

ベルグフェルドでドイツ菓子を食べて、西洋の空気に浸りたくなったら、行ってみてください。小高い丘の上の森の中に、瀟洒な洋館。加賀藩前田家の邸宅だったもの。鎌倉を好んだ文学者は多く、ゆかりのある文人100人マップが飾られていました。今は、高浜虚子展、次回は、くどうなおこ展、その次は、川端康成と三島由紀夫展を開催予定だそうです。（月曜休館）



HuRP5周年企画「朝鮮半島と日本の歴史を東京で学ぶ」は、8月28日に19人の参加で事開催することができ、たくさんの方の学べることができました。追ってご紹介いたしますので、お待ちください。

その当日も炎天下の中を施設まで歩きましたが、お盆を過ぎ、9月になろうという時期にしては暑い日が続きます。東京は雨も降らず、暑さが和らぐ暇がありません。いよいよ3ヶ月連続で同じ内容の文章を書くことになりましたが、くれぐれもご自愛していただきますよう、よろしくお願いします。（T本）



特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP: ハープ)

Human Rights and Peace Information Center JAPAN (HuRP)

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-6 川合ビル41号室 TEL&FAX 03-3234-3231

e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>